

20

ANNIVERSARY

20年のあゆみ

蕎麦は心で打つ



さいたま蕎麦打ち倶楽部

そば“をこよなく愛し、
手打ちそばを通じて
人の輪(和)を大きくする



さいたま蕎麦打ち倶楽部 20周年記念祝賀会

平成27年7月11日(土) 正午~14時30分
ホテルプリランテ武蔵野 サファイア

【第1部】感謝状授与

一般社団法人全蕎協から本倶楽部へ感謝状授与

【第2部】記念式典

1. 開会の辞 藤間 英雄 副会長
2. 会長挨拶 田中 浩三 会長
3. 感謝状贈呈 株式会社アサヒコミュニケーションズ 代表取締役会長 新井 正敏 様
毎日興業株式会社 代表取締役 田部井 功 様
岡本 繁樹 様
山本 金夫 様
4. 来賓祝辞 一般社団法人全蕎協 理事長 中谷 信一 様
イクマエンタープライズ株式会社 代表取締役 山本 育磨 様
5. 来賓紹介
6. 祝電披露
7. 謝辞 加藤 憲 顧問
8. 閉会の辞 吉田 寛 副会長

【第3部】祝賀会

1. 鏡開き 中谷 信一 様 山本 育磨 様 高崎 満 様
田中 会長 加藤 顧問 阿部 名誉会長
2. 乾杯 阿部 成男 名誉会長
3. 来賓祝辞 桜流蕎麦打ち研究会会長 高崎 満 様
いるま手打ち蕎麦倶楽部名誉会長 小山 周三 様
4. 余興
5. 中締め 飯田 良男 副会長
6. 閉会の辞 石川 勇二 副会長

創立20周年に寄せて



我々が築いてきた伝統と技能を各会員が発揮し
地域貢献に努力してほしいと念願しております

さいたま蕎麦打ち倶楽部 会長 田中浩三

平成7年7月、私がまだ現役の時現在倶楽部の顧問をされている加藤憲さんから御誘いがあり蕎麦の好きな仲間が集まり異業種の会「分桜流・彩国蕎麦蘊蓄の会」が発足、早速入会し早くも20年が経過してしまいました。人間でいえば20歳の成人式を迎えたこととなります。

そば打ち道場も当時、私がお借りしていた浦和のアサヒ印刷のビルの一室をたまり場としてスタート、蕎麦打ち道具もなく会員の皆さんと「かっぱ橋」の道具街に出向き取り揃え又、おそろいの前掛け、帽子、作務衣等買いそろえたことが昨日の様によみがえってまいります。

そば打ち道場も浦和の再開発がありやむを得ず北浦和に移転しましたが下の階の住人と折り合いが悪く止むなく武蔵浦和の一室を借りうけましたがこれも隣の住人とトラブルがあり同じ武蔵浦和の東口に引っ越し数年経過しましたがこれも駅前再開発で移転せざるを得ませんでした。

現在、新都心駅東口近くの毎日興業さん所有の事務所の一室にやっと落ち着いてそば打ちをする環境が整った経緯があります。発足当時は素人の蕎麦打ち集団としては我が会が先陣をきってスタートしましたが右も左も分からなく加藤さんがそば打ちの勉強をなさっていた東京江戸桜流の方々及び新橋「本陣房」の山本育磨プロがわざわざ埼玉までお越しいただきそば打ちの基本を何度となくご指導頂いたことが何にも代えがたい事と感謝に堪えません。

又、当時全麵協の段位認定大会が各地で開催されはじめ競ってこれに参加し初段・二段と段位を認定されはじめましたのもスタートが早く、後に日本信号の社屋で高瀬礼文先生を審査委員長にお迎えし

埼玉初の初段位認定会を開催するまでに成長致しました。これも懐かしい思い出の一つであります。

又、手弁当で参加した日光今市のそば祭りでは4日間毎日早朝から一日13玉ぐらいそば打ちに集中、御蔭様でそば打ちの技能は向上したのではないのでしょうか。終了後は近くの温泉につかり、疲れをいやし晩酌の美味しかったこと、皆で懇談したことが懐かしく思い出されます。

当倶楽部は現在44名の会員、54名の会友で組織されておりますが会員は倶楽部の目的であります社会貢献をする事が主眼であり多くの会員がこれに賛同し地域振興そして社会貢献にお役に立てている事と思えます。

上里町の児童養護施設訪問は今年で18回目となり毎年クリスマスの時入所者の子どもたちに美味しいそばを御馳走し、その時の子ども達の笑顔が何よりの宝物に成っています。年間行事も各会員の協力によって多くの皆さんに喜んで頂いていますので、今後共継続的に活動していかなければなりません。

全麵協段位認定者も五段7名、四段16名、三段34名を擁する倶楽部に成長してまいりましたが、現在抱えている課題は会員の高齢化であります。これからは若手の指導も含め五年、十年先の事も念頭に対処していかなければなりません。

最後になりますが、昨年全麵協の認証道場に新都心が第1号、北本道場が第2号に認定されました。我々が築いてきた伝統と技能を各会員が発揮し地域貢献に努力してほしいと念願しております。

会員、会友の皆さんと一緒に20周年をお祝いできる事に感謝し又今までご支援、ご指導していただいた方々に深く感謝しお祝いの言葉と致します。



祝辞

貴会のますますの発展をご祈念申し上げまして
お祝の言葉といたします

一般社団法人全麵協 理事長 中谷信一

さいたま蕎麦打ち倶楽部が設立から20周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお祝いを申し上げます。

貴会は、平成7年7月の発足以来、そばを通しての「仲間づくり、地域づくり」を掲げ、豊かな人格形成を図るとの精神のもと、麵類の食文化発展向上への奉仕活動を積極的に続けてこられました。このことは、全麵協の歴史とほぼ同じくして歩んで来られたということでございます。

2013年11月、日本食文化がユネスコの無形文化遺産に登録されたこともあり、今年、イタリア・ミラノで開催中の国際博覧会の日本館でも和食は大きな注目を集めています。そばも和食を代表する一つとして世界的にも息の長い蕎麦のブームが続いていることに私共に取りましても非常にありがたいことです。

このような中、新しい麵類文化の継承・発展ということでは、そば愛好者の裾野を広げることこそ有

効な手段であることは言うまでもありません。

貴会が早くから取り組まれた手打ちそば教室は昨年、全麵協認証道場第一号として認証され、その後の全麵協会員の同様事業の先駆的な役割を果たされました。

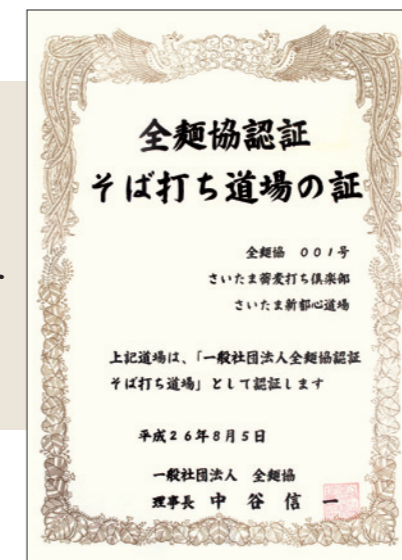
また、全麵協基幹事業の段位認定会開催や各種ボランティア事業にも積極的に取り組まれた実績は歴代の指導者の指導力の賜であり、それを支える会員のご努力に感謝いたします。

貴会は、首都圏に隣接した立地と、大勢の全麵協有段者を擁しており、このことは、全麵協運営にあたり、役員輩出など大きな力となっていることは間違いありません。

今後ともますますのご支援、ご協力をお願いする次第です。

貴会のますますの発展をご祈念申し上げましてお祝の言葉といたします。

倶楽部の道場
(新都心・北本)は
全麵協認証道場として
活動しています





さいたま蕎麦打ち倶楽部の活動や全麵協での活動で、 第二の人生が充実した輝けるものになりました

さいたま蕎麦打ち倶楽部 顧問 加藤 憲

平成7年7月、私が現役を退任した直後、趣味としてそば打ちを始めようという気運が私の取りまく人々の間に盛り上がりました。まだ埼玉県内には素人のそば打ち団体はほとんど存在しない時期にそばの同好の士29名が意気投合して「分桜流・彩国蕎麦蘊蓄の会」という名称で会を結成いたしました。ちょうどその2年前(平成5年)に全国的な組織として「全国麵類文化地域間交流推進協議会」が設立されており、素人のそば打ちに対する関心が高まりつつある時でありました。そのような時代の流れに沿うように私もそば打ちの渦中に巻き込まれ、脇目もふらずにそば打ちにのめり込んでしまいました。蘊蓄の会では、どうすれば綺麗で美味しいそばが打てるのかということで一生懸命そば打ち技術の向上に励んで練習するとともに、会員とそばにゆかりのある地方への旅行をしたり、養護施設や福祉施設にそばのボランティア活動を行ったり、会員同士でそば談義に花を咲かせたり、畑を借受けてソバの栽培をしたり、そば祭りに出店したりして大変充実した活動をしてきましたが、その一つ一つのことが今でも鮮明に記憶に残っています。何かまだ最近のこのようで、もう20年も経過してしまったのかと時の流れの早さに驚きを感じえないところでもあります。

また、私は、幸運にも恵まれて、全麵協の素人そば打ち段位認定制度に早いうちから参画しており、四段位も、五段位も第一回の最初の認定会で合格でき認定を受けることができました。そのために、この全麵協との深い関わりが早い段階から持つことができました。現在も段位認定事業の責任ある立場の役職をおうせつかり、全麵協の運営に携わっているほか、事業活動にも積極的に参加しております。全国各地

で開催される全国認定会の実行、各種そば講習会、研修会の参加、そば博覧会等への支援、そば産地の海外視察への参加等々忙しい毎日を過ごしております。このようなことから全国各地に多くのそば仲間と知己を得ることができ、これが大きな財産となっております。

また海外研修では、先般地震で大災害を受けたネパールには2度も訪ねてダウラギリ山の夜明けの光景は生涯忘れることができない感動を味わいましたが、これもそば打ちをしていたからこそできたものと感謝で一杯であります。

印度仏教の哲学に人間の生涯を100年とし25年を1区切りにして、学生期、家住期、林住期、遊行期とするとされ、その中で50歳から75歳位までの林住期をいかに過ごしたかでその人の人生が輝かしい稔のあるものであったかどうかを評価できるということです。このことは作家の五木寛之氏も「林住期」という本で書いております。

このようなことから、私はそば打ちをはじめたさいたま蕎麦打ち倶楽部においての活動や全麵協での活動で、「林住期」の第二の人生が充実した輝けるものになりました。これもさいたま蕎麦打ち倶楽部の皆さんをはじめそばを愛する人たちのお蔭であり感謝、感謝であります。今後も健康でいる限り、そば打ち技術の向上を図りつつ地域振興や社会貢献活動に参画し、潤いのある人生を送りたいと願っております。

さいたま蕎麦打ち倶楽部がこれからも益々発展されること、そして会員の皆さん方が元気でいつまでもそば打ちを楽しまれることを祈念してお祝いの言葉といたします。



気が付けば そばに魅せられ 一筋に 倶楽部とともにこの20年

さいたま蕎麦打ち倶楽部 名誉会長 阿部成男

20年前の7月7日浦和青年の家で、17人が集まって、本家桜流蕎麦打ち研究会のご指導の下で「分桜流・彩国蕎麦蘊蓄の会」が発足した。

加藤 憲氏、安西 弘氏が幹事世話役代表、私が事務局長、現会長の田中 浩三氏が会計であった。

その後、8年後の平成15年に、会の名称が長すぎ、また正確に読める人が少なくなじみが薄いなどの評判に、全会員アンケートから「さいたま蕎麦打ち倶楽部」と改称したが、未だに蘊蓄の会の名称がやけに懐かしいのは私が年を重ねたせいか。

倶楽部が盛りだくさんの行事で華やかになってきたのはこのころからでした。

そば打ち教室の開設、会友制度の創設、NPO法人そばネット埼玉の設立、さいたま新都心への移転、鴻巣教室の開設、日曜庵倶楽部など、豊富なボランティア活動に加えて、本格的な手打ちそば普及活動に広げていったこと。そのことにより、さいたま蕎麦打ち倶楽部が、埼玉はもとより全麵協の中でもトップクラスのそば打ち愛好団体として成長してき

たものと思われる。

さて、これからは？

ついこの間まで一緒に歩いていた梅原 務さん、阿部由吉さん、福島邦彦さんが抜けて寂しい限りだが、会員・会友が一体となって倶楽部の発展のために協力し合って歩んでいくことである。

私も一緒に歩んでいくが、分桜流設立時の目的である「伝統食文化・蕎麦の手打ち技・味を愛でる人が、人脈づくりの遊び場、社会奉仕活動の拠所として寄り合うことを目的とする。」が私たちの原点であり、この心を忘れないでいきたいと思っている。

この20年、桜流蕎麦打ち研究会の皆さんを始め多くの蕎麦打ち家に囲まれて充実したそば打ち人生を送れたこと、さらに、倶楽部の幹事長・会長として私のわがままを許していただいた会員の皆様に感謝します。

～この道は 果てなく続く 迷路でも

行く先々に そば打ち仲間～



20年のあゆみ

さいたま蕎麦打ち倶楽部

“そば”をこよなく愛し、手打ちそばを通じて人の輪(和)を大きくするアマチュアそば打ち集団です。伝統食文化・そばの手打ち技・味を愛でる人が、人脈づくりの遊び場、社会奉仕活動の拠所として寄り合うことを目的とし、平成7年7月、民間企業、埼玉県警察職員、埼玉県庁職員などのそば好きで結成しました。(発足時は「分桜流・彩国蕎麦蘊蓄の会」)現在44名の会員と54名の会友で、例会及びそば打ち道場を開き、そば打ちの研鑽に励むほか、研究旅行や福祉施設などへの出張そば打ちを実践しています。平成16年度からは、一般向けのそば打ち教室も開催しています。

全国各地で開催される“そばまつり”への出店

日光そば祭りや各地区のそば祭りへなど交流イベントへの参加など積極的に行っています。

- 第8回 日本そば博覧会 (今市市/平成14年)
- 第9回 日本そば博覧会 (北海道幌加内町/平成15年)
- 第13回 日本そば博覧会 (福島県磐梯町/平成19年)
- 第14回 日本そば博覧会 (北海道幌加内町/平成20年)
- 第15回 日本そば博覧会 (栃木県日光市/平成21年)
- 今市そばまつり (平成18年から日光そばまつり) (平成16.17.18.20年)
- さいたま市中央区区民まつり (平成15~23年)
- 長野市大岡新そばまつり (平成17~23年)



平成14年11月4日 今市市



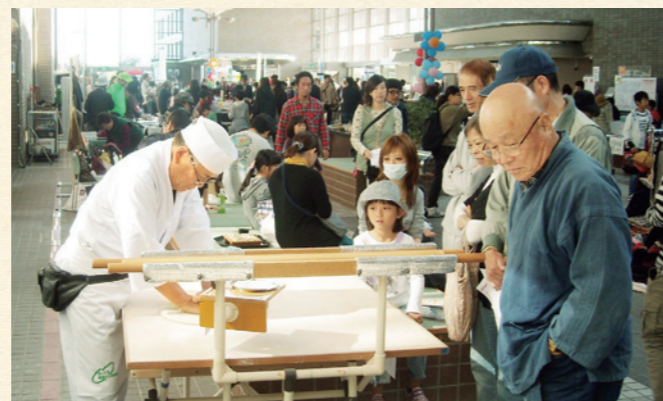
平成18年11月11日 さいたま市中央区



平成19年10月28日 磐梯町



平成20年9月7日 幌加内町



平成24年11月4日 県民活動センター

一般社団法人全麺協認定の素人そば打ち段位認定会の開催等

段位認定大会や全麺協主催事業等への参加。



平成17年1月23日 さいたま市見沼区



平成19年9月16日 利賀村



平成22年9月12日 利賀村



団体戦 第6回全麺協東日本支部
会員対抗そば打ち選手権大会優勝
(平成26年11月30日開催)



平成26年 県民活動センター

社会福祉施設への そば打ち訪問



毎年、クリスマス時期に福祉施設でサンタによるそば打ちを行って、子供たちの「おいしい」の声に元気もらい、倶楽部から美味しいおそばを子供達にプレゼントしています。平成20年12月には感謝状をいただきました。今まで18回開催しています。



毎年恒例の「杉の子学園」など、市内外のさまざまな施設のイベントに参加し、多くの方に食べていただいています。



障害者施設「かやの木」チャリティそばまつりに参加し、施設の方や近隣の方へおそばを振る舞いました。



みなさんにおかわりしていただけるようにたくさんの蕎麦を打っています。

発足当初から、「手打ちそばを通じた社会奉仕活動を実践する」の目標どおり行っています。

平成26年度末まで70施設超、延べ8,000人以上の方に心のこもった手打ちそばを召し上がっていただいています。

平成 8 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別養護老人ホーム「まきば園」(100人) ● 老人ホーム「寿楽園」(本庄市/100人) 	平成 19 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 武蔵浦和日本語学院留学生そば打ち体験教室(104人)
平成 9 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧浦和市内一人暮らし老人100人を迎えて ● 養護老人ホーム「富士見園」(50人) ● 特別養護老人ホーム「伊奈の里」(100人) 	平成 20 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 「グリーンフォレストビレッジ」(熊谷市/7年間延べ700人)
平成 10 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童養護施設「上里学園」(17年間延べ2140人) ● 障害者と家族の集い(旧浦和市/平成14年まで5回延べ1550人) ● 老人ホーム「亀鶴園」(所沢市/70人) ● 羽生市医師会立老人保健施設「カノープス☆羽生」(200人) ● 特別養護老人ホーム「見沼緑水園」(旧大宮市/100人) 	平成 21 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 埼玉福祉事業協会フェスティバル(6年間延べ3000人) ● 障害者そば打ち教室(6回コース)(6年間延べ432人) ● 聴力障害者そば打ち体験教室(目黒区)
平成 11 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童養護施設「おおさと学園」(800人) ● 埼玉県歯科医師会主催「歯の祭典」に模擬店として協力参加 	平成 22 年	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアハウス「しらさぎ」(5年間延べ250人)
平成 12 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 花まる学習会の児童に蕎麦栽培・そば打ち体験教室(親子そば打ち体験教室として平成13年を除き26年まで13回開催。延べ910人) 	平成 23 年	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきフェスティバル(埼玉県県民活動総合センター/4年間延べ1600人) ● 与野西北小学校そば打ち体験教室(与野西北小/4年間延べ120人) ● 男のそば打ち教室(大宮東公民館/4年間延べ50人) ● そば打ち体験教室(新座市大和田公民館/4年間延べ50人) ● 中学生そば打ち体験教室(大宮南中学校/20人) ● 草加東高校PTAそば打ち体験(草加東高校/20人)
平成 13 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人保健施設「春陽苑」(さいたま市/300人) 	平成 24 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 秩父新そばまつり(3年間延べ1500人) ● そばジャズ シャイン(さいたま市/3年間延べ120人) ● そば打ち体験教室(三橋公民館/3年間延べ60人) ● 秩父子ども大学そば打ち教室(25年に2回開催) ● 留学生そば打ち体験教室(埼玉大学・浦和日本語学校) ● 岩槻子どもと高齢者そば打ち体験交流 ● そば打ち体験教室(文蔵公民館/20人)
平成 14 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人ホーム「ウェルガーデンコスモス」(吹上町/13年間延べ650人) 	平成 25 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 秩父農工科高校そば打ち教室 ● 留学生そば打ち教室(日本語学院) ● 留学生そば打ち教室(東京日本語学院) ● 入間基地航空自衛隊フェスティバル
平成 15 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 高萩公民館でそば打ち教室(日高市) ● 知的障害者更生施設「しびらき」(さいたま市/入所者家族100人) 		
平成 16 年	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人ホーム「武蔵野ユートピア」(旧江南町/11年間延べ1430人) ● 埼玉県盲ろう者友の会の皆さんそば打ち教室(57人) ● 大宮ろう学校児童そば打ち体験教室(中学部) ● 大宮ろう学校児童そば打ち体験教室(高等部) 		
平成 17 年	<ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人食育研究会MoguMogu親子そば打ち体験教室(20人) ● 障害者施設「かやの木」チャリティそばまつり(平成21年まで延べ1000人) 		

● 印は平成26年度までの継続活動事業

● 印は継続後終了した活動事業

そば打ち教室の開催

全麺協認証道場として、親子のそば打ち教室や外国の方たちに体験教室を開催しています。また、一般の方を対象に毎月そば打ち教室を行っています。



道場の変遷

- 平成 9 年4月 浦和道場
- 平成 12年4月 北浦和道場へ移転
- 平成 14年7月 武蔵浦和駅東口へ移転
- 平成 15年4月 武蔵浦和駅西口へ移転
- 平成 20年2月 さいたま新都心へ移転
- 平成 19年4月 北部拠点として鴻巣道場開設
- 平成 24年7月 鴻巣道場から北本道場へ移転



北本そば打ち道場

さいたま新都心そば打ち道場

手打ちそばを通じた食育活動

地方独自の蕎麦打ちを通じて、地域のそば文化を知るとともに、子供たちにも食育の大切さを教えています。



手打ちそばに関する普及啓蒙活動

蕎麦を打つだけでなく、蕎麦を知るために栽培を実践したり、外部講師による蕎麦の知識普及も行っています。また、日本そば大学講座を主催したり、一般の方を対象にそばを楽しんでもらうイベントを開催しています。



「手打ち蕎麦本陣房グループ」の山本育磨先生をお招きして手打ち蕎麦の技術研鑽に努めています。

蕎麦を打つだけでなく蕎麦粉の知識も知ろうと栽培もおこないました。



蕎麦のさまざまな知識を習得するため、各地域で行われている蕎麦大学にも参加し、知識の習得につとめています。



気軽に手打ち蕎麦を食べていただけるよう新都心道場にて第二日曜日にお店を開いています。

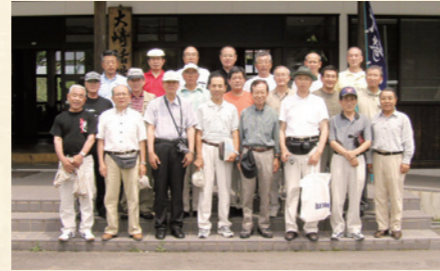
東日本大震災の復興支援のため、手打ち蕎麦とジャズのコラボのチャリティにも取り組んでいます。



蕎麦蘊蓄の旅

各地の蕎麦文化を知るために蕎麦打ちはもとより、そば料理などを知り、より蕎麦の魅力を知る「蕎麦蘊蓄の旅」を行っています。

- 平成 8 年 信州蕎麦発祥の地伊那谷
- 平成 9 年 会津・山都蕎麦の里
- 平成 10年 信州飯綱東高原
- 平成 11年 常陸秋そばの産地、茨城金砂郷町・水府村
- 平成 12年 北海道幌加内「新そば祭り」
- 平成 13年 山形蕎麦街道
- 平成 14年 今市で開催の日本そば博覧会に出店
- 平成 17年 佐渡島
- 平成 18年 南会津（南郷村）
- 平成 18年 韓国平昌郡李孝石文化祭（そばまつり）視察
- 平成 19年 南魚沼市
- 平成 19年 台湾（高雄市）で市民とそば打ち文化交流会を開催
- 平成 20年 群馬県高山村でそば交流会
- 平成 21年 蓼科高原のそば資料館・研究センター（所長 氏原暉夫）
- 平成 24年 群馬県沼田市、伊香保温泉
- 平成 26年 長野県青木村、小諸市信州小諸峰の蕎麦会



平成 17年 7月 3日 佐渡島



平成 18年 6月 4日 南郷村



平成 21年 6月 13日 蓼科高原



平成 19年 6月 9日 南魚沼市



平成 20年 7月 12日 高山村



平成 24年 6月 25日 沼田市



平成 26年 10月 19日 青木村

その他の活動



創立 15年 祝賀会



古希の会



お花見

段位保有者数	【会員】五段位7名／四段位14名／三段位17名／二段位4名／初段位2名／計44名 【会友】四段位2名／三段位17名／二段位30名／初段位1名／無段位4名／計54名
総会・例会 (蕎麦打ち技術の修行)	総会20回開催。例会平成27年3月末まで延べ166回開催
そば打ち道場稽古	【会員】毎週水曜日夜開催 【会友】毎月第2・4水曜日又は週末2回開催
そば打ち教室 (一般向けに毎月開催)	【新都心そば打ち道場】第1・3水曜日、第1・3土曜日 【北本そば打ち道場】第1・3日曜日、第2・4水曜日

※平成 27年 7月現在

～「さいたま蕎麦打ち倶楽部 20年のあゆみ」発行にあたり～

あらためて、振り返りますと、蕎麦を通じて多くの方との出会いがありました、そして、そのふれあいこそが倶楽部の礎となり、さまざまな活動の発展につながったものと、深く感謝申し上げます。今後も蕎麦文化の継承発展や社会貢献はもとより、美味しい蕎麦を多くの皆さんに食べていただけるよう歩んでまいりますので、ご支援の程、よろしく願い申し上げます。また、今回の記念誌の発行にあたりましては、多くの方々から写真のご提供やご協力をいただき誠にありがとうございました、御礼申し上げます。最後に、いつも私たちにフレーフレーのエールをいただいている飯田副会長より20年のエールで締めさせていただきます。



さいたま新都心そば打ち道場 〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町4-261-5 2F

北本そば打ち道場 〒364-0007 北本市東間2-2

事務局 048-644-4466 ホームページ <http://members.jcom.home.ne.jp/sobauchi/> E-mail sobauchi@jcom.home.ne.jp

「さいたま蕎麦打ち倶楽部 20年のあゆみ」発行：さいたま蕎麦打ち倶楽部 平成 27年 7月発行